

希望に突き動かされて

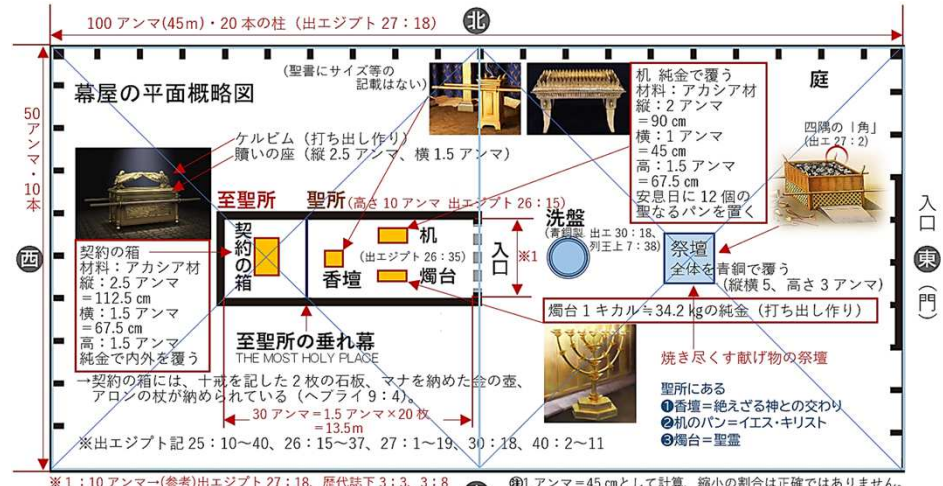
Motivated *by* Hope



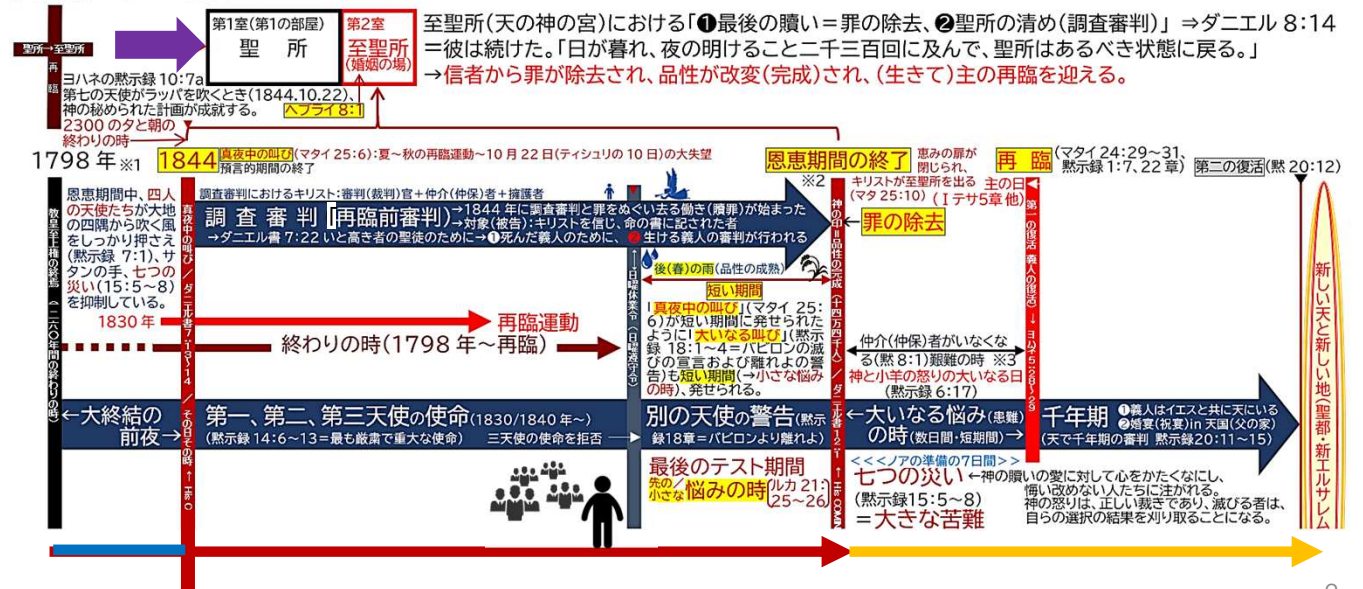
☑ 神の裁き：①義人の救い/幸福 (主の裁き) ②悪人の滅び/敗北
the judgement of God / his judgements



幕屋
十字架
調査審判



【略図】神の救いの計画 (教皇至上権の終焉から新しい天と新しい地までのフローチャート)



ヨハネの黙示録11:19

そして、**天にある神の神殿**が開かれて、その**神殿の中にある契約の箱**が見え、稲妻、さまざまな音、雷、地震が起こり、大粒の雹が降った。



贖いの座(口語訳:贖罪所)・ケルビム(ケルブの複数形)・シェキナ

ヨハネは、**天にある神の神殿**が開かれるのを見ました。至聖所には、契約の箱がありました。旧約聖書の聖所は天の大いなる原型に倣った型であり、神の栄光の臨在が、契約の箱の蓋の上にある一対の天使の像の間にあらわれていました。箱の中には**神の律法**が収められています。私たちは信仰を通して恵みによってのみ救われますが、神の律法に従うことは、私たちの信仰が本物であるかどうかを明らかにします。神の律法は裁きの基準です (ヤコ2:12)。この事実は、終末において特に重要な意味を持ちます (黙12:17、14:12参照)。

神の律法は、神ご自身と同様に、神聖なものである。それは、神の意志の啓示であり、神の品性の写し、神の愛と知恵の表現である(希望への光P.27、人類のあけぼの 第4章 エデンの園の悲劇)。

神の律法は、神のみこころの啓示であり、神のご品性の写しである(希望への光P.1805、各時代の大争闘 第25章 預言に現れたアメリカ合衆国)。

The Sanctuary The Path to the Throne of God P.220
Sarah Elizabeth Peck

出エジプト37：1～6



With humility the high priest, dressed in his plain white linen garments, entered the most holy place on the day of atonement.

謙虚な心持ちで、大祭司は贖罪の日に質素な白い亜麻の衣服を着て、至聖所に入りました。→ティシュリ(第七の月)10日

On the mercy seat he placed the golden censer, the smoke from which dimmed the glory of the Shekinah,

贖いの座(贖罪所)の上に、彼は黄金の香炉を置きました。その煙はシェキナ(シェキーナ)の栄光を薄暗くしました。→レビ記16:2、12、13

Within the ark, symbol of God's throne, are the tables of stone on which God engraved the Ten Commandments, the law by which all shall be judged.

神の王座の象徴である箱舟(契約の箱)の中には、神がすべての人を裁く十戒を刻んだ(二枚の)石の板が置かれていました。→ヘブライ9:4

The overshadowing wings of the cherubim "touch each other,"
ケルビムの覆いかぶさる翼は“互いに触れ合っています”。

EW 252, and “covered the mercy seat.” Ex. 37:9. Their heads bowed toward the ark, show their reverence for God's eternal law of love.

そして“贖いの座を覆”(出エジプト記37:9)っています。箱舟に向かって頭を下げたケルビムの姿は、神の永遠の愛の律法に対する敬虔さ(畏敬の念)を示しています。

最も重要な預言 各時代の争闘 第 18 章

ウィリアム・ミラーと再臨運動の開始

ウィリアム・ミラーの歩み

▶聖書の権威に疑惑を抱きながらも、なお真理を知りたいと心から望んでいた、高潔で誠実な一農夫が、キリスト再臨の宣布において指導的な役割を果たすために、神によって特に選ばれた。他の多くの宗教改革者たちと同様に、**ウィリアム・ミラー**は、年少のころから貧困と戦い、**勤勉**と**自制**という大きな教訓を学んでいた。彼の家族は、独立心、自由を愛する精神、忍耐力、そして熱烈な愛国心に燃えた人々であって、彼もまた、こうした特質の人であった。彼の父は、独立戦争当時の大尉で、あの波乱に富んだ時代の奮闘と苦難による犠牲が、ミラーの少年時代を窮乏に陥れた。

▶ミラーはじょうぶな体の持ち主で、幼少のころから非凡な知力を示した。そしてそれは、彼が成長するにつれて、ますます顕著になった。彼の知性は、活発でよく発達し、知識を渴望していた。彼は、大学教育を受けなかったけれども、研究に対する愛着や、注意深い思索と精密な批判の習慣は、彼を健全な判断と理解力に富んだ人にした。彼は、申しぶんのない道徳的品性の持ち主で、評判もうらやましいほど良く、誠実、儉約、慈悲深い心などが、人々から高く評価されていた。彼は、**勤勉努力**の結果、早くから相当の財産を作ったが、しかし相変わらず研究の習慣を持ちつづけた。彼は、いろいろの政治的や軍事的職務について功績をあげ、富と名誉への道が、彼の前に広く開けているように思われた。

➤彼は、すべての先入観を捨てようと努め、注解書を用いないで、(聖書の) 欄外の引照とコンコードダンス(用語索引)を参考にして、聖句と聖句とを比較した。彼は、規則正しく組織的に研究を続けた。まず創世記から、1節ずつ読んでいき、数節の意味が、なんの疑念もなくはっきり理解されるまでは先に進まなかった。何か不明なところがあると、彼は、その問題点に関係があると思われる他の聖句を全部比較してみるのであった。すべての言葉は、その聖句の主題に対して適正な意味を持つものとし、もし彼の見解が、すべての関連した聖句と一致するならば、それで問題は解決するのであった。こうして彼は、理解することが困難な聖句に直面すると、聖書の他のところにその説明を見いだした。彼が神の光を求めて、熱心に祈りつつ研究していった時に、これまで不可解と思われていたところが明らかにされた。彼は、詩篇記者の次の言葉が真実であることを経験した。

「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます」(詩篇 119:130)。
→新共同訳：御言葉が開かれると光が射し出で／無知な者にも理解を与えます。

自分の魂の救いにかかわる問題である以上、人は自分で聖書を探求しなければならない！～希望への光P.1890、各時代の争闘下 P.364～
ただ聖書をつまびらかに研究する者だけが世界中を捕らえる欺瞞から救われるのです。今、我々の大祭司なるキリストが天の至聖所で最後の贖罪の働きをしておられる間に、そのみ言葉を研究し、我々の義務を果たすようにしましょう。

⚠ 証の書も同様に読むことが大切！

⑧ イザ 40:6、六
⑨ ルカ 4:3
⑩ イザ 40:6、六
⑪ 詩 119:130
⑫ 詩 119:130
⑬ 詩 119:130
⑭ 詩 119:130
⑮ 詩 119:130

低められた人の癒やし
主は言われる。
築き上げよ、築き上げよ、道を整えよ。
私の民の道からつまずきとなるものを取り除け。
高みにおられ、崇められ
永遠におられる、その名が聖である方が

太陽暦・ヘブライ暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Siwan, Sivan	タムーズ Tammūz	ア ブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルハ シユバン Marcheshwān	キスレーヴ Kislew, Kislev	テベット T'ebheth	シユバット Šabhāt	アダル Adhār, Adar	
バビロニアの月名 ():カナン of 古称	ニサン (アビブ)	イツヤル (ジウ)	シワン	タンムズ	ア ブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ハシユワン (ブル)	キスレウ	テベト	シエバト	アダル	
主な行事	←←← 七週間 →→→ ②七週祭(シャブオット)→詩編68:2~4を朗読 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ★ユダヤの三大祭: ①過越祭、②七週祭、③仮庵祭						1:新年 新年祭(ロシユ・ハシャナ)※1 10:大贖罪日(ヨム・キップール) ※2 15~21:③仮庵祭(スコット)		25:宮清めの祭(光の祭り、ハヌカ) (25日~8日間)				
	14~21 ①過越祭(ベサハ)=ニサンの月の14~21日						①過越祭(過越しの祭り):ニサンの月の14日の日没~15日の日没 ②除酵祭(種を入れないパンの祭り):15日の日没~21日の日没		※1:Rash Hashanah(ヘブライ語) (頭) (年) ※2:Yom Kippur(ヘブライ語) 大いなる贖罪の日 →レビ記16:29、23:27、25:9、民数記29:7				

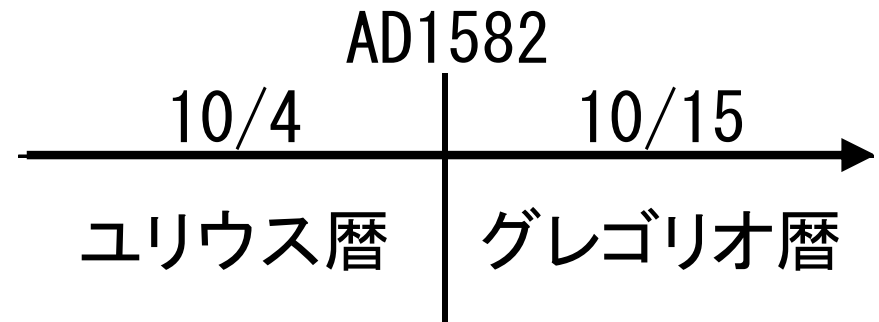
七週祭

過越祭の後に来る安息日は、4月6日

April 4						
日	月	火	水	木	金	土
過越週 ①	1	2	3	4	5	⑥
安息日の翌日は、4月7日(日)	⑦	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1

七週が終わる満了日(7×7=49)とは、5月25日

パンテコステ(50日目)



エルサレム再建(ダニエル 9:25)に関するユダヤ人への三つの再建命令

▶エズラ記にはエルサレム再建に関する三つの命令が記録されている。

- ・第一の命令: キュロス Cyrus 王の元年(第一年)の BC538 年頃(エズラ 1:1~4)
- ・第二の命令: ダレイオス(ダリウス)Darius 1 世の治世(エズラ 4:24、6:1~12)の BC520 年頃
- ・第三の命令: アルタクセルクセス Artaxerxes 王の第 7 年の BC457 年(エズラ 7:1~28)

▶エズラ記 6:14

ユダの長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言に促されて順調に建築を進めていたが、イスラエルの神の命令と、ペルシアの王キュロス、ダレイオス、アルタクセルクセスの命令によって建築を完了した。

→三つの命令は、時期こそ異なるが、実質上は、一つの命令であったと解釈できる。

→**エルサレム再建命令** (エルサレムを復興し建て直す許可命令)

	即位年	最初の年	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目		
	BC465	BC464	BC463	BC462	BC461	BC460	BC459	BC458	BC457	BC456	BC455	
	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	
							BC458年		BC457年			
	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月

Seventy weeks are determined (= חַטָּף חסאָפּ = cut off = 切り取る) upon thy people and upon thy holy city.

ヘブライ語

2300の夕と朝(七十週の預言) 一時期、二時期、半時期等)

「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」(ダニエル書8:14)

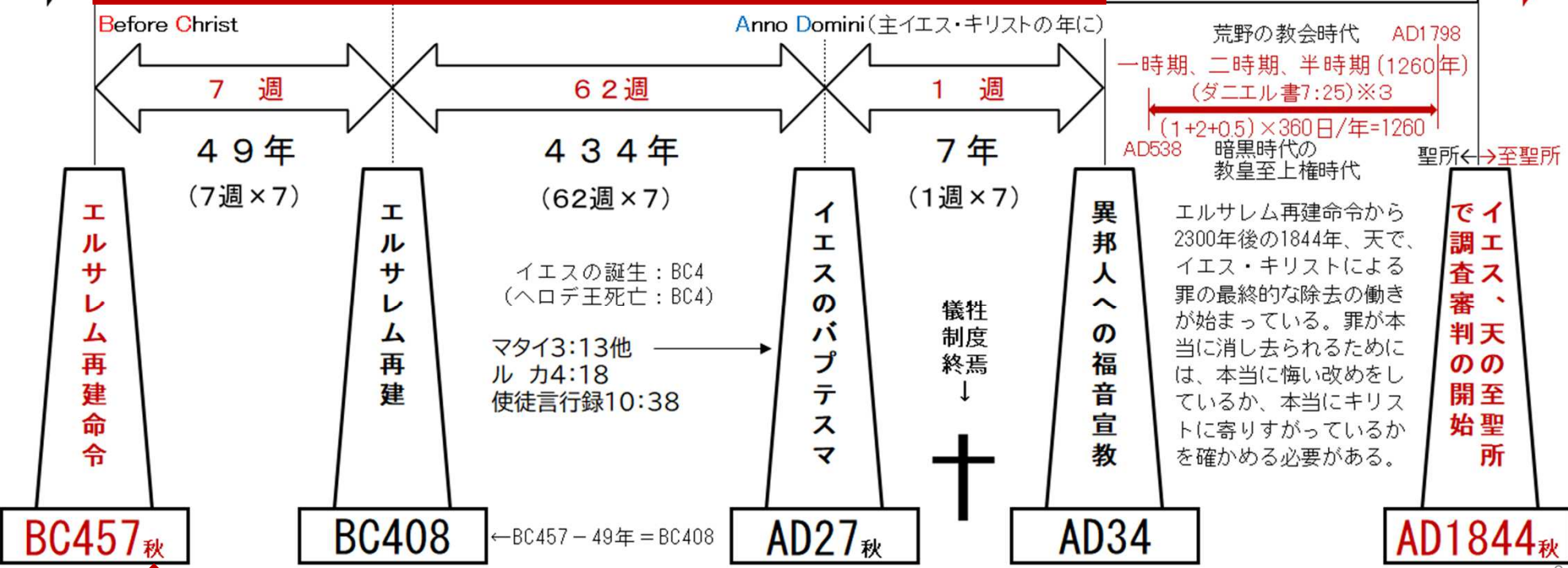
※4:ダニエル書7:13~14a →

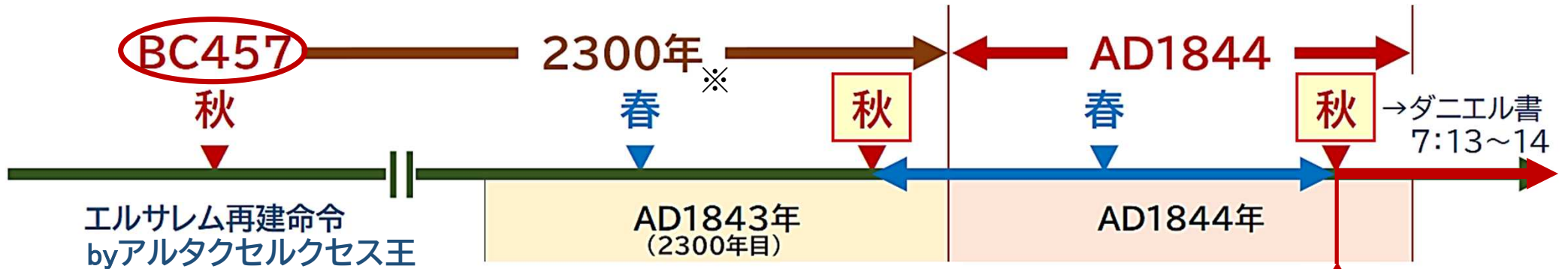
2300の夕と朝(年) ダニエル書8:14

あなたの民についてはく七十週(490年)が定められている。
 (新共同訳) お前の民と聖なる都に対して七十週が定められている。(ダニエル書9:24)
 →Seventy weeks are determined (= חַטָּף חסאָפּ = cut, cut off = 切り取る) upon thy people and upon thy holy city.

1810年
 2300年 - 490年 = 1810年

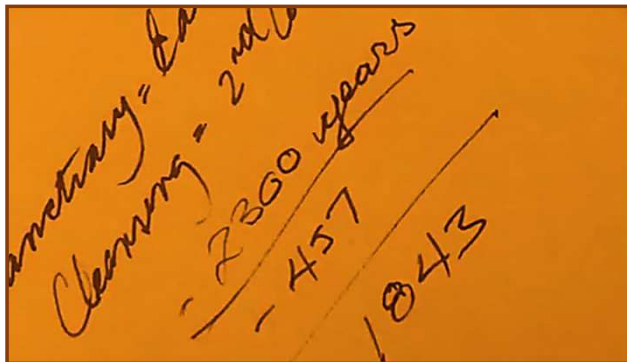
調査 審判





※:ダニエル書8:14
彼は続けた。「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、
聖所はあるべき状態に戻る。」

→口語訳:二千三百の夕と朝の間である



from
Tell the World

初代文集 経験と幻 預言の期間の計算
ミラーとその仲間たちは、初め、**1844年の春**に2300日が終わると信じたが、預言では**同年の秋**になっていた。この点についての思い違いは、主の再臨の時として早いほうの時期を定めていた人々に、失望と困惑をもたらした。

➤ ウィリアム・ミラーと彼の仲間、初期の弟子たちと同様に、自分たちが伝えているメツセージの意味を、十分に理解してはいなかった。長い間、教会内で確立されてきた誤りのために、彼らは預言の重大な部分を正しく解釈することができなかった。

したがって、彼らは、世界に伝えるために神からゆだねられた使命を宣言したけれども、その意味を取り違えて、失望を味わうに至った。

➤ ミラーは、ダニエル8:14の「2300の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」(→口語訳)という言葉[↓]を解釈する際、…**地上が聖所である**という一般の(誤った)見解を採用し、聖所の清めとは、主の再臨の時に地上が火で清められることであると信じた。したがって、2300日の終結が明確に預言されているのを見いだした時、これは再臨の時を示しているものであると結論を下した。彼の誤りは、聖所とは何かということに関する一般の見解を受け入れたためであった。

～各時代の争闘 第19章 暗黒を照らす真理の光 再臨信徒と聖所問題
希望への光P.1764～

→ダニエル書8:14(新共同訳)

彼は続けた。「**日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、(天の)聖所はあるべき状態に戻る。**」

…彼(ウィリアム・ミラー)の働きは、教会を盛んにするものであったから、しばらくの間は喜んで迎えられた。しかし、牧師や教会の指導者たちが、再臨の教義に反対することを決めて、その問題に関するいっさいの運動を圧迫するようになると、彼らは説教壇から反対するばかりでなく、教会員が再臨に関する説教を聞くことや、教会の集会においてその希望を語ることさえも拒否した。…彼らは、神の言葉のあかしを閉め出そうとする人々を、キリストの教会を構成する者、「真理の柱であり基礎」をなす者と見なすことはできなかった。そこで彼らは、従来との関係から分離することが正しいと考えた。1844年の夏、約5万人(の再臨の教義を信じる者たち)が教会から脱会した。

～希望への光P.1776 各時代の争闘 第21章 真理の拒否とその結果 再臨信徒の働き～

(大失望後)最初、この進んだ光をもって前進していたグループと行動を共にしたものは、ほんのわずかしかなかった。1846年には、彼らの数は約50名であった。～初代文集 経験と幻 本書の歴史的背景 二種類の再臨信徒～

「十人のおとめ」の譬では、二つのグループはそれぞれ五人ずつなので比率は五分五分ですが、実際にSDA教会の信徒も半分ずつに分かれるのでしょうか？パイオニア時代において、『真夜中の叫び』に参加した人々の人数は全部で約5万人位といわれていますが、1844年10月22日の大失望のあと、残った数はわずか50人程度でした。

つまり、思慮深いおとめたちは、5万人中たったの50人しかいなく、あとの49,950人は思慮が浅いおとめたちであったことになります。ということは、思慮深いおとめたちは 1%どころか、0.1%しかいなかったのです。100人に1人もいなかった(→現在と永遠の幸福のために私たちが最も必要としているこのテーマに関する聖書にある真理を、自ら自分で理解している人は、100人に1人もいない)ということです。あとの99.9%が思慮の浅いおとめたちだったのです。

～聖書研究ミシガン 真夜中の叫び 二つのグループの比率 P.36～

